

本事例の基礎データ

カテゴリ	ICT 及び先端技術を活用した指導方法		
学校種	中学校	事例提供者	東村山市立東村山第四中学校
学年	1 年生	教科等	社会科
単元名	古代の世界と日本		
主な ICT 機器	・タブレット端末（キーボード付き Chrome OS 機／一人 1 台）		
授業の概要	これまでの歴史学習を振り返り、根拠をもって平安時代の様子を予想する。		
「情報活用能力 #東京モデル」 の位置付け	情報活用	STEP 4	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて収集した資料から、傾向や変化を適切に捉えられる ・できるだけ多くの事実や確たる根拠に基づき、客観的に分析・判断できる ・事象を、情報とその結び付きの観点から捉え、批判的に考察し、判断しようとする

本事例における教育の情報化について

【ポイント 1】	<p>様々なツールを活用</p> <p>用途に応じて Google スライド、Jamboard を使い分けた。生徒の活用するツールを、教師が意図的に指定することにより、生徒一人一人が各種ツールの特性を把握することができる。</p>
【ポイント 2】	<p>Inter CLASS cloud の活用</p> <p>Inter CLASS cloud を活用することにより、生徒がタブレット端末で作業をしている様子や作成した作品を大型提示装置で即時に共有することができ、考えを広げたり、深めたりすることができる。</p>
【ポイント 3】	<p>教科の学習目標を達成するための手段としての ICT 活用</p> <p>指導計画の作成段階で、ICT を活用すること自体を目的とせず、教科の目標や情報活用能力を育成していくための ICT 活用方法を検討し、実践することにより、教科の目標や情報活用能力の育成を効果的に行うことができる。</p>

本単元（題材）における指導の流れ

時間	●主な学習活動 ・生徒の活動	○支援・留意点 ☆評価
1	<p>●広がる国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 隋、唐という大国の登場や律令国家の成立が日本を含む東アジアにどのような影響を与えていくのかを考える。 ・ 朝鮮半島の争いに日本が深く関係していくことを理解する。 	<p>○これまでの東アジアの歴史を踏まえ、どのように東アジアが変化していくのかを捉えさせる。</p> <p>☆中国が統一されて律令国家となったことがどのように日本に影響を与えていくか今後の見通しを立てて学習しようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>
2 ～ 5	<p>●飛鳥時代～奈良時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東アジアとの関わりの中で日本がどのように国家としての基礎をつくり上げていったのかを理解する。 ・ 仏教が流入し、政治に大きな影響を与えるなど、文化の形成には政治や社会の影響が強く出ること理解する。 	<p>○律令により日本の国家としての基礎が固められた時代であることを捉えるとともに、その律令制は日本の実態と合っておらず、行き詰まりをみせることを確認する。</p> <p>☆律令制の導入は日本にどのような影響を与えたのかを理解している。【知識・技能】</p>
6 (本時) ～ 8	<p>●平安時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 律令制の課題に対する国家の対応とその結果を理解する。 ・ 東アジアとの関係の変化が日本の文化にどのような影響を与えたのかを考える。 	<p>○既習事項を踏まえて、平安時代がどのような時代になっていくのかを生徒自身が予想し、その後の授業で史実はどうなっているのかを確かめる課題解決型の学習を行う。</p> <p>☆これまでの歴史を踏まえて、平安時代の日本がどのように変化していくのかを根拠に基づき考えることができる。【思考・判断・表現】</p>
9	<p>●古代のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「古代の重要な出来事ランキング」をグループおよび個人で考える学習を通して、古代とはどのような時代だったのかを大観する。 ・ 基礎的・基本的な知識の定着を確認するために小テストを行う。 	<p>○グループで振り返りを行った後に古代という時代の特色が把握できているかを確認するためにパフォーマンステストを実施する。</p> <p>☆これまでの学習を活かして、古代の特色について考え、表現することができているか。【思考・判断・表現】</p>

本時の流れ

段階	●主な学習活動・児童の活動	○支援・留意点 ☆評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型端末で Classroom を開き、資料を開く。
	<p>めあて：今までの学習内容を生かして、平安時代の様子を予想する。</p>	
展開 ①	<ul style="list-style-type: none"> ●奈良時代の学習を振り返り、平安時代でのような改革が行われるのかを次のグループごとに考察する。 A：政治 B：農民への支配 C：宗教 ・班でテーマごとに話し合う。 ・班で出された考えを共有する。 ・班の結論をまとめ、代表者が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項をよく振り返り、知識が定着していない生徒をフォローしながら進めるように説明する。 ○班ごとに Jamboard で共有する。必要に応じて Jamboard の入力方法を説明する。（タブレット端末を操作するのは班で1名とする。）
	展開 ②	<ul style="list-style-type: none"> ●平安時代の特徴を見付け、見付けた事象の説明を考える。 ・Classroom に配付されているスライドを開き、「平安時代を眺めてみよう」と「平安京図」から平安時代の特徴を見付ける。 ・見付けた事象に説明文を付け、スライドを完成する。
展開 ③	<ul style="list-style-type: none"> ●平城京から長岡京、平安京と遷都した理由を理解する。 ・自らの考えと比較しながら、解説を聞き理解を深める。 ・桓武天皇期の農民に対する政策が厳しい税制を緩和するものであることを理解する。 ・自らの考えと比較しながら、解説を聞き理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の予想と比べながら、平城京と平安京の違いや桓武天皇のねらいについて生徒が歴史的な見方・考え方を働かせやすいように説明する。 ○生徒の予想と比べながら、律令制が農民の実態と合わず、かえって税収を減らしていた事実について説明し、緩和を行うことが双方のメリットにつながると考えたことを捉えさせる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の学習を振り返り、桓武天皇が奈良時代の課題に即した改革を行ったことを理解する。 ・振り返りシートを活用し、学習を振り返る。 ・次時への見通しをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が予想したことと史実を結び付け、次時の学習の見通しをもたせる。 ☆単元カード（振り返りシート） できるだけ多くの事実や確たる根拠に基づいて平安時代の歴史を予測し、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

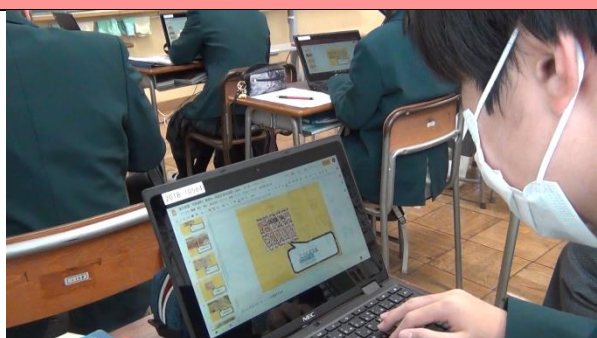
授業の実際

【ポイント1】 ●Jamboard によるグループ学習



Jamboard を活用してグループ学習を行うことで、全員が意見を出しやすくすると共に、教師も学習の経過を容易に確認することができ、生徒の考えを効果的に共有することができた。

【ポイント2】 ●Google スライドによる学習



生徒自らがスライドに掲載された資料を編集して説明文を考える学習を通して、根拠を明確にして自分の意見を書き、今後の学習への見通しを立てることができた。

【ポイント3】 ●Inter CLASS cloud の活用



Inter CLASS cloud を活用することで生徒がタブレット端末で作業している最中もその様子を確認することができ、教師が生徒の回答を把握することが容易にできた。その結果、その後の授業の展開に効果的に生かしていくことができた。

今後に向けて

- 年間を通して教科の指導計画の中に情報活用能力を育成する学習を位置付け、計画的・系統的に力を伸ばしていく。
- 生徒がそれぞれの学習に適したツールを選んで使えるようにするため、ツールごとの特性・特徴を把握できるよう指導する。